



猪高の森自然観察だより 2025・12 月号

開催日時：2025 年 12 月

テーマ、参加者等は、今月は定例観察会の休みの月に当たりますので、記載・記録等はありません。

この 12 月は、気温の乱高下が著しく、11月の気温になるかと思えば、翌日には 12 月の本来の温度になったりしました。

暖かい雨の日のにすり鉢池のデッキで、アオダイショウの幼蛇に出会い、「12月にへびを見る」という初めての体験をしてしまいました。(左上の画像はヒイラギの花 すり鉢池周辺にて)

○「ちょっとまずい」がポイント？！

NHK で12月 26 日放映の「植物に学ぶ生存戦略」からのこの言葉をお借りしています。この季節に木々に成っている小さめの果実についての話題で、マンリョウの実が対象でした。小さめの果実は鳥たちの大事な食料であると同時に、木々にとっては種を多くの鳥たちに運んでもらうために食べてもらわねばなりません。もし、その実が

- ・超おいしかったら…少数の鳥に食べつくされてしまって、多くの鳥に食べてもらえない。
- ・超まずかったら…全く食べてもらえないので、本末転倒になってしまう。

そこで木々たちは「ちょっとまずい」をキーワードにその実を味付けしました。その結果として多くの鳥たちに少しずつ食べてもらえるようになりました。

この時期に成っている代表的な実を調べてみると…



クロガネモチ



センリョウ



ピラカンサ



ナンテン

左の6種類の身近な木の実は、多少の程度はありますが人に対する毒性がありますので、食べないように注意してください。

人によっては「鳥が食べるから大丈夫！」と話す方がいますが、人と鳥は違います。コアラが食べるユーカリの葉は毒がありますし、イカの刺身をネコやイヌに与えてはいけない事例もあります。



ソヨゴ



マンリョウ



ヒサカキ



ガマズミの仲間

少量だから、鳥も辛うじて大丈夫なのかもしれません。

食用でないものを口にするときは、予め調べたうえで口にするのを、おすすめします。

左の2種は毒もなく、鳥たちにも人気とされています。

ガマズミの仲間おいしいと思ったことはありますが、ヒサカキは食べるものではないと、決めて

います。(個人の感想を含んでいます。)

実の種類によっては、枝についている未熟な実には毒があり、枝から落ちた完熟な実は食べられる、なんていう種類もあり、銀杏(ぎんなん)のように少量なら大丈夫などというものもあります。

冬に寒さにあつて渋みが抜けて(完熟し)鳥が食べやすくなる木もあるなど、植物もいろいろと策を労しているようです。

○冬になっても、落葉樹なのに葉が落ちない株が結構あちこちで見られるのはなぜ？

冬に葉が落ちない木の代表は「ヤマコウバシ」で、春に新芽が動き始めて落葉をし始めます。

本来、落葉樹なのに、落ちない状態がコナラやアベマキの比較的小さい木にも多いように見受けられます。

木の仲間が生まれた大昔(数千万年前～数億年前)は全ての樹種が常緑樹であつた、と考えられています。それが、あちこちで進化、進出していくときに、気温の大きい変化や乾燥などを克服するために、落葉性を獲得していったとされています。



樹高 1.5m前後のコナラの幼木

落葉樹なのに葉が落ちず、比較的小さい木に多いのは、落葉の基本である枝との「離層形成」がまだ十分に発現されていない、常緑樹の名残なのでしょう。

遠い未来、落葉樹が再び常緑樹にもどるのか、完璧な落葉樹に進化するのかは、今のところ誰もわかりません。

○ヤマノイモの種は風で飛ぶ？！



9月ごろの若い莢の房



12月になってすっかり成熟



一つの莢は3室に分かれている



すっかりひらいた莢



一つの部屋には2枚の種がはいっています

「ヤマノイモの種」で調べてみると、
①種芋の植え方と育て方とか
②むかごを植えてみようとか
が出てきて、本当の「種子」に中々行きつきませんでした。

左の画像のように、セロハンのように薄い膜に
つつまれた種は、風に運ばれてあちこちに広がり

ます。ユリの種も同じような作り
で風に運ばれますね。

ヤマノイモは

- ・地下のイモ
- ・茎に付くむかご
- ・風で飛ぶ種

の3通りで増えて行きます。

工夫をいろいろとしています。



むかごは昔から利用されている



ユリの莢も開いて種を
風で飛ばします

○観られたいろいろな生き物たち



秋からぶら下がっていたカラスウリの実



イチヨウの特徴的な冬芽



風で飛ぶモミジの種



ガマの種も風任せ



コバノカモメズルの裂けた莢
種は風で飛ぶ



ハンノキの雄花と雌花のつぼみ



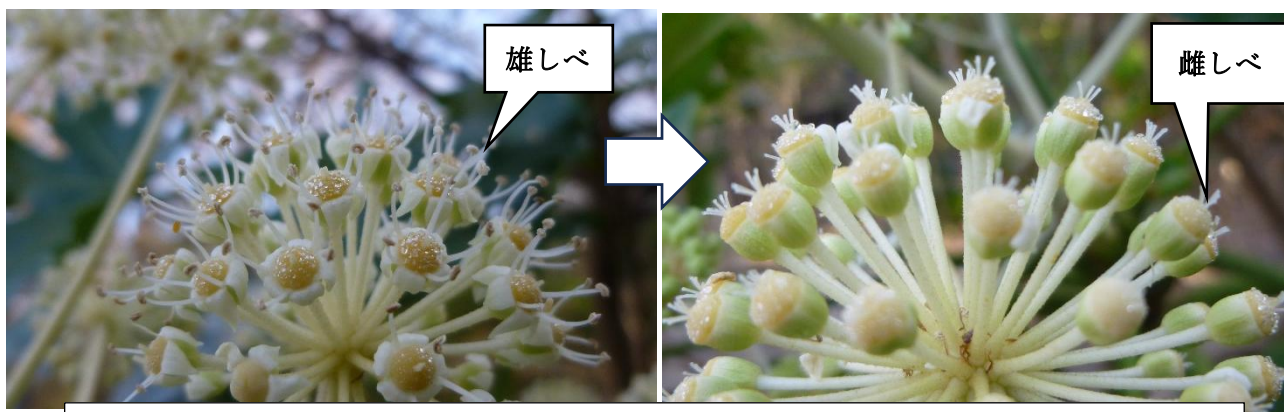
ナミテントウが集会所北側壁で
冬越し



マルカメムシも北側壁に



ヒガンバナは冬に
葉を出す



ヤツデは雄しべが先に出て花粉を出し、同じ花の雌しべが次に受け取れるように成熟する。自分の花の花粉で受粉しないようにし、近親交配をなるべく避けている。



左はツタ（ナツツタ）の吸盤の付いた付着根、右はキヅタ（フユツタ）のくつつく為に発生させた多くの細かい根です。両種とも巻き付いて上に伸びる方法ではないのですが、いろいろとあります。



キミノセンリョウの実



ビワのつぼみ。花はこれからです。

次回観察会は1月25日（日）森の集会所集合 9：30～です。

（雷ナウキャストにて雷発生の危険のある場合は中止）

名東自然倶楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/index.html>

からご覧になってください。

（右上の自然観察グループをクリックしてください）